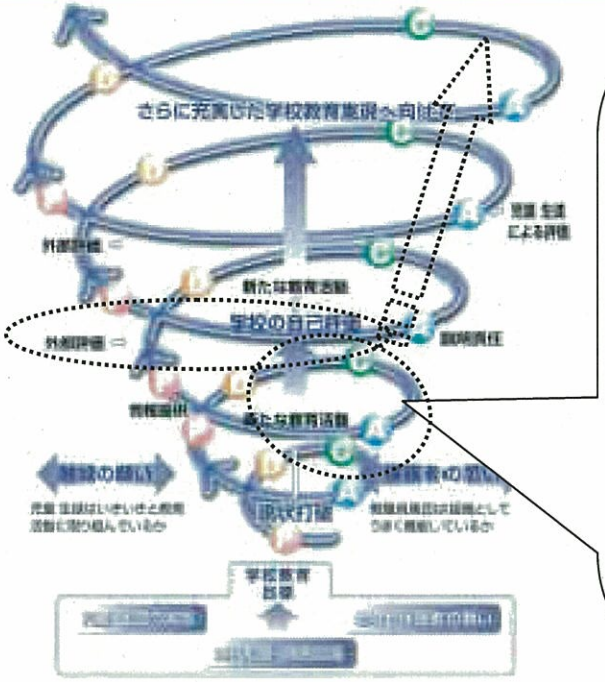
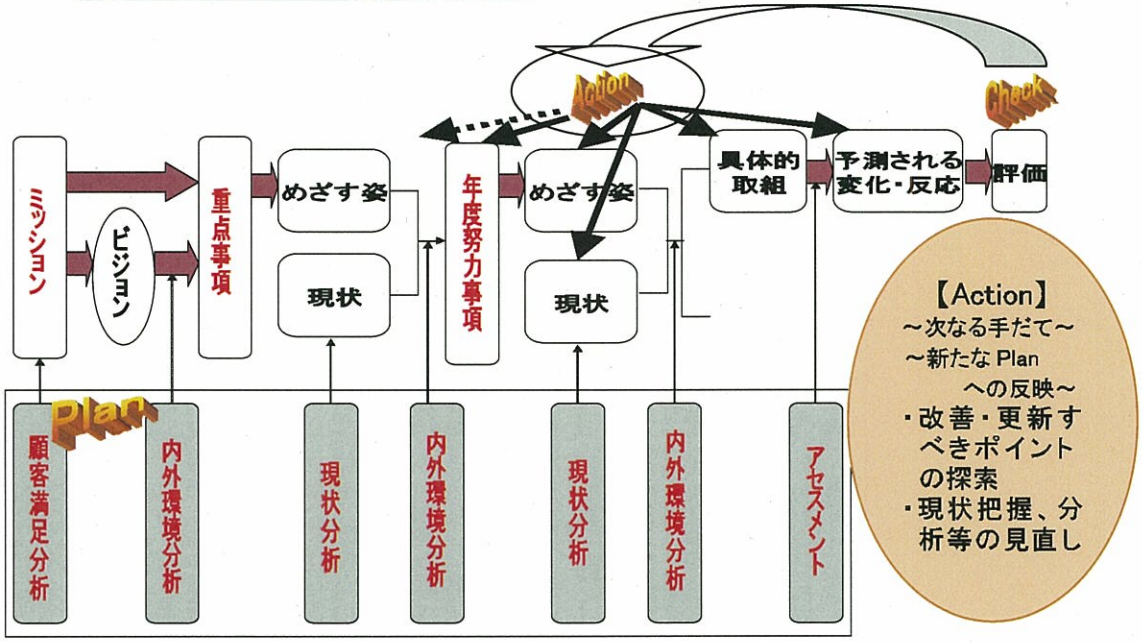
4　課題の抽出と計画の見直し



「掲げた目標や、当初の目的にどれほど近づけたのか」「取り組んだ実行策は有効であったのか」と自己点検・評価を行うことが、次なる手だてを探ることにつながります。

計画・実施・総括、その結果を更なる教育活動の充実に向けて、次の計画立案に反映させるという一連のサイクルに、一貫して評価を位置づけながら展開することが「学校評価システム」を構築していくプロセスです。

その際、外部評価も加えながら、一層多角的な視点で課題を明確にすることが自己評価の質を高めます。



実践への視点

a. 情報を交流・蓄積し、的確な評価活動に努めているか。
b. 目標に照らして、評価の時期や対象、場や方法などが工夫されているか。
c. 自己評価のみならず、必要に応じて外部評価を取り入れているか。
d. 異なる価値観を磨きあい、調整する機会や仕組みがあるか。
e. 評価結果に基づいて軌道修正する組織や仕組みは機能しているか。

例:中間評価・総括的評価からアクションへ

【ポイント】年度中途に評価を行い、協議に基づく具体策の実践！
総括的な評価に基づく新たなプランへの反映！

【年度努力事項】
① 授業力の向上
② 学習習慣の定着

実 践
【前期】

・習熟度別授業の実施
・「学習の軌跡」による家庭学習の振り返り
・シラバスの活用による見通しをもった自主学習

【中間評価】
教職員による自己評価
生徒による授業評価
等

検討事項の焦点化

【具体策の検討】
分掌
学年
教科

更なる具体策の提案

「検討事項」に絞った協議

◆習熟度別授業の在り方
→発展的・補充的な教材の位置づけ
（学習意欲・学力の定着をめざす）
◆「学習の軌跡」の様式・内容の見直し
→年間１０００時間の家庭学習を奨励
（生徒指導・学習指導に活かす）
◆シラバスの有効活用
→シラバスに「重点事項」を明記
（生徒に「何を学ぶか」を知らせる）

実 践
【後期】

【総括評価】
教職員による自己評価
学力調査結果
保護者アンケート
等

検討事項の焦点化

協議

◆発展的・補充的な教材の位置づけは効果的だったか
◆年間1000時間の家庭学習はどれほど達成されたか
◆学習の軌跡やシラバスは学習指導に生かされたか
◆習熟度別授業は保護者にとっても満足できるものであったか

次年度の課題設定

1 早期からの進路意識の高揚
① 総合的な学習の時間の活用
② インターンシップの導入

2 学習指導の充実
① シラバスの改善と有効活用による学力の定着
② 家庭学習の質的・量的充実につながる課題の工夫
③ 教科・科目担当者による個別面接の実施
④ 各ステージ（学年）に習熟度ホーム（クラス）の編成